

秋季号

# Y-MOT ネットワーク通信 Vol. 9

(山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻)

## 「最近出会った、幾つかの言葉」

(特別寄稿) 山形大学工学部学部長

飯塚 博 氏



### ○「はつたり」

大辞泉によると、その意味は、

①「相手を威圧するために、大きさな言動をしたり強気な態度をとつたりする」と。また、その言動・「一をかける」「一をきかせる」。

②「なぐること。また、おどすこと」。

この17日間に、既に4、5人の方から「はつたりが必要」というアドバイスを頂きました。ご助言頂いた皆様に感謝します。私に足りない要素のひとつだ自身を感じています。

先日、学部長就任の挨拶回りをさせて頂いている中で、今野正・元工学部長のお孫さんにお会いしました。

15年ほど前に、私は一度今野先生にお会いしていました。若手教員の講演会があり、当時若手だった私がその中の一人としてプレゼンテーションをしました。確かに「ウッドセラミックスの力学的強度」に関する発表したと記憶しています。

その後の懇親会の時に、私の横にスッと今野先生が近づいて来られ、「あんた、発表が下手だなあー」、「もう少し「はつたり」をきかせたらどうなのか」、「確かに、研究者だからなー、良いことも悪いこともちゃんと言うことは必要だが……」。

「それにしても、「よし、ちょっと試してみるか」って聞いている人に思われるようにならないと、ダメだ」と。

後にも先にも、その時一回限りの出会いでした。数年前に他界されたとのこと、感謝と合

9月1日で日常生活が劇的に変化しました。その日から今日、9月17日までの17日間に、幾つかの言葉に出会い、立ち止まって考えることがありました。以下にそれについて紹介します。

### ○「表」と「裏」のカリキュラム

9月12日、技術部研修会で、「工学部のこれからと技術部に期待すること」という演題で講演をしました。その中で、学生にとって技術職員は、最初に出会う最先端の技術を有して活躍する専門家です。是非、技術の専門家として、厳しい指導をお願いします。

とくに、大学には、材料力学や流体力学などといった「表」のカリキュラムとは別に、時間厳守・礼儀・規律・身だしなみ・約束厳守等を、日々の大学生活の中で教育する、「裏」のカリキュラムがあります。技術職員の皆さんには、是非、この「裏」のカリキュラムを学生達に教えて頂きたい」ということを述べました。

講演が終わり、その会場を出たところで、一人の技術職員の方が私に追い付いて来られ、「先生、あれは「裏」のカリキュラムではなく、あれこそ「表」のカリキュラムでしょう」。

この技術職員の方に、座布団3枚！

### ○「私心」

「あの人には私心を感じるね」と私が言うと、「まさにそういうことでしょう」と事務長。

久しくぶりに「私心」という言葉を使つた気がしました。「私心なかりしか」という言葉が、次に頭に浮かぶ。

そこで自分で日々編集している辞書、(パソコンの中にエクセルファイルで作っている自分の辞書)を引いてみました。そしたら、「動機善なりや、心なかりしか」という言葉と出会いました。

「これは、現在JAH再生機構の長を務めておられる、元京セラ会長の稻盛氏の言葉でした。

我々は物事を判断するときに、何を支えにしたら良いか、自分の判断に自信があるか、頼りは、動機が善で、私心がないこと。

もう少し辞書を検索してたら、今年の6月4日、「政治の四患」政治について古来からいわれている四患——四つの病弊がある。

第一は偽である。

昔は政界に出ることは、私産を失うのが常識であった。今は、「自分の為に、公を假ること」が平氣である」という、中国古典にある言葉が出てきました。

第三は、「放」、第四は「奢」でしたか。人の行いは今も昔も変わっていないようですね。

知つてゐるつもりでいても、残念ながら、いざ自分の場面となると、気付かぬことが多いのでしょうか。

秋明菊(しゅうめいぎく)の花



◆発行 平成23年10月15日  
第9号 〒992-0039  
山形県米沢市門東町  
三丁目1番47号  
(NPO)Y-MOTネット  
ワーク  
TEL: 0238-40-0761  
FAX: 0238-40-0765  
HP:  
<http://yonezawanet.jp/Y-MOT/>

◆制作 編集企画委員会

この事業は、財団法人東北活性化研究センターから助成を受けて実施しています。



## 『私とMOT』シリーズ編

MOT三期生 石川地方農業振興協議会

大平 周一 氏

### MOT入学の動機

平成18年11月、東京ピックサイトで開催されていた展示の中に、山形大学の「大学院食品MOT」が出演しておりました。その取組み内容等のお話を聞き、ぜひ学んでみたいと思ったのがきっかけでした。(中・山間地域農業には、農業生産するだけなく、地域資源を活かした新たな戦略、「6次化」として取り組むことが必要と思いました。)

地域の資源をどう活かすか各部会に分かれて取り組んでおります。

石川地方農業振興協議会の事務局で、平成22年度第3期石川地方農業振興計画「アグリプラン2」策定とその計画を基に、平成23年度から良食味米・産地形成、首都圏近接園芸産地、いしかわ牛・産地形成の三つの農畜産物の振興の実践を進めています。私の地区での町づくり委員会委員として、地域の活性化に取り組んでいます。

西側には阿武隈川が南北に流れ、沿岸に平坦農地が広がり、東側には阿武隈山地があり、山間部に狭い耕地が点在しております。耕地は標高220m～500mにあり、又私の住む地区は、阿武隈山地の里山に在ります。

### 卒業後の地域活動

私の住む福島県石川町は、福島県中通り南部に位置し、人口は約17,800人、減少傾向が続いております。平均気温13℃、年間降水量1,300mm、積雪は少なく比較的温暖な地域にあります。

西側には阿武隈川が南北に流れ、沿岸に平坦農地が広がり、東側には阿武隈山地があり、山間部に狭い耕地が点在しております。耕地は標高220m～500mにあり、又私の住む地区は、阿武隈山地の里山に在ります。

西側には阿武隈川が南北に流れ、沿岸に平坦農地が広がり、東側には阿武隈山地があり、山間部に狭い耕地が点在しております。耕地は標高220m～500mにあり、又私の住む地区は、阿武隈山地の里山に在ります。

### 3月11日の突然の出来事！



農家レストラン「農園Café やい子ばあちゃん」

### ・危機感

原発の問題は、福島県の内側で見ています。外部（県外）からの目線で、意見をいたぎ課題を整理していくたいと思つております。

### ・そして「これから……」

震災復興・再生をどうすすめて行くのか、災害の少ない地域（安全）だけに取り残されてしまうと思いますので、山形大学大院MOTのアドバイスや意見をいただきたいと思つります。

「6次化」地域内連携、及び仕組みづくり取組みを実践していくたい。

落ち着きましたら、是非イブニングサロンへ参加したいですね。

## 《街中サテライトが新居に移転(隣り)！》

街中サテライトが広くなりました。1階のセミナーホールが隣りの広いエリアに移動し、収容人員も約3倍に増えました。入口には、受付とショールームが配置されております。

従来の場所には「米沢市国際交流協会」が入居し、常駐しております。

街中サテライトも多機能化し、地域との交流も益々深くなってきております。どうぞ皆様も、機会を作つて頂き、是非お出掛け下さい。



従来の場所



セミナーホール(3倍の広さ)



受付と広くなったショールーム

それから、自宅では、昨年念願の農家レストラン「農園Café やい子ばあちゃん」を立ち上げました。まだまだ軌道にはのりませんが一步前進していきたいと思っております。機会がありましたらお立ち寄りください。

幸い石川町は、放射性物質（ヨウ素・セシウム）等飛散が福島県では低い状況でした。しかし、原発の風評被害は、多い少ないではなく何が安全なのか、消費者は何を信用すればよいか戸惑い、不安を感じていると思います。

この「これが1年で終わらない」との不安を、福島県に住んでいる人たちは感じております。

## △ イブニングサロン開催！（東日本大震災を考える）△

9月10日(土)、第7回イブニングサロンを開催致しました。

今回は3月11日に発生した大震災をテーマに、福島県で実際に遭遇された方々からの体験談を中心にお話を頂きました。

### ①「磐城壽」地縁復興に向けて

浪江町(株)鈴木酒造店

専務取締役 鈴木 大介 氏

### ②「風評被害と支援」

福島市福島路ビール

代表取締役 吉田 重男 氏

### ③「大堀相馬焼の移転と再建」

福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター 宇野 秀隆 氏

皆様の御協力により、約30名の方々の御参加を頂き有意義なひと時となりました。

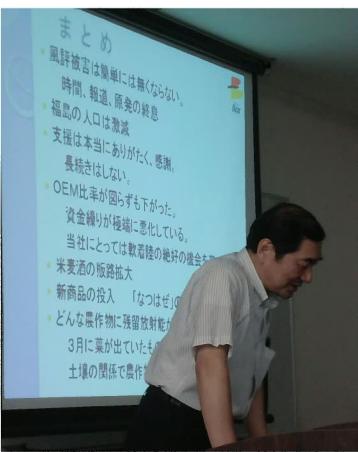


司会の斎藤真幸氏(MOT-5)と会場風景

①(株)鈴木酒造店の状況について  
鈴木さんのご一家は、震災後に米沢駅前に避難されて、日本酒「磐城壽」の復活と工場の復興に取り組まれてきます。講演の中で、次々と写し出される震災の傷跡の映像には、言葉を失いました。山形県の某酒造メーカーの支援を得られて、復興に取り組まれているとのお話にほつとしました。放射能問題もあり風評被害は続きますが、心からの支援を続けましょう！



津波の後、酒蔵の跡地から掘り出された一升びんの山々、思ったより破損が少なかったとのこと。



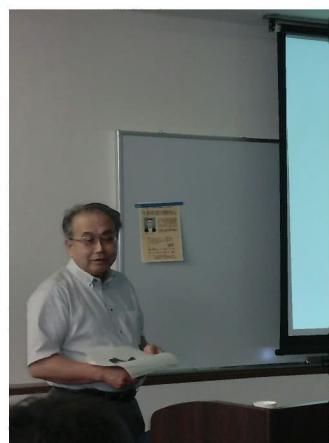
発表する福島路ビールの吉田重男氏(MOT-5)



復活出来たブランド、「磐城壽(ことぶき)」を手にする鈴木さんご一家。前列が発表者の鈴木専務。復興の鍵は酵母種にあり！たまたま、H23年1月17日に技術センターに預けていた、「磐城壽」の酵母種の存在が判明、幸運で不思議な巡り合わせ！



保管されていた、酵母の現物の写真



発表する福島ハイテクプラザの宇野秀隆氏(MOT-1)。ご自身も、大震災発生時に仙台駅で遭遇、宮城県庁で一夜を明かされたとのこと。

②福島路ビールの風評被害と支援  
地震による直接的な物的被害は少なかったが、停電、ガソリン不足、食料品の入手難等もあり、操業再開は3週間後。

風評被害で、4月から東京のOEM先や大手チェーン店からの注文が停止、いまだに再開していない。放射線の検査で証明しても駄目。しかし一方では沢山の支援を頂いた、義援金は、ビアパブ、原料商社、知人等等、食料品は、OEM先、顧客、友人、親戚他。それから、インターネットの売上は前年比10倍に、各地の同業者も当社のビールを購入してくれた。銀行の通販では送料を負担、我々も各地の復興イベントに毎週のように参加。風評被害は続くが、これからも新商品の投入も考え、負けずに頑張る！

③「大堀相馬焼の移転と再建」について  
江戸時代初期から作り始められ、相馬藩が保護・育成したため100余りの窯元があつたが、現在は24軒。今回の震災で人的被害は少なかつたが、協同組合傘下の窯元は県内外に離散状態で再建は極めて困難な状況になっている。大堀相馬焼復興会議が開催され、二本松市(旧安達町)小沢工業団地に仮設工場を建設予定。再開は年末か？しかし、一時避難から仮設住宅に移った状況の中、資金・砥山石の確保等、復興に向けての課題が多く、短・中・長期の復興プランが必要との見通し。



明るい笑顔の呂慧さん

### 「コーヒーブレークで、こんにちは！」

今秋MOTを卒業され、株式会社リクルートへ就職される呂慧(RO Kei)さんです。中国の大連がご出身の呂さんは、旅行が好きで食にも大変興味があり、日本各地を旅行されています。



そんな呂さんの日本の印象は、町がきれいで、マナーがよく、他人に迷惑をかけない、、、、など、うれしい言葉が続きます。歴史に名を残すような人になるという、大きな夢を笑顔で語ってくれた呂さん、ご活躍をお祈り申し上げます。

(インタビュー…黒田三佳 編集委員)

